

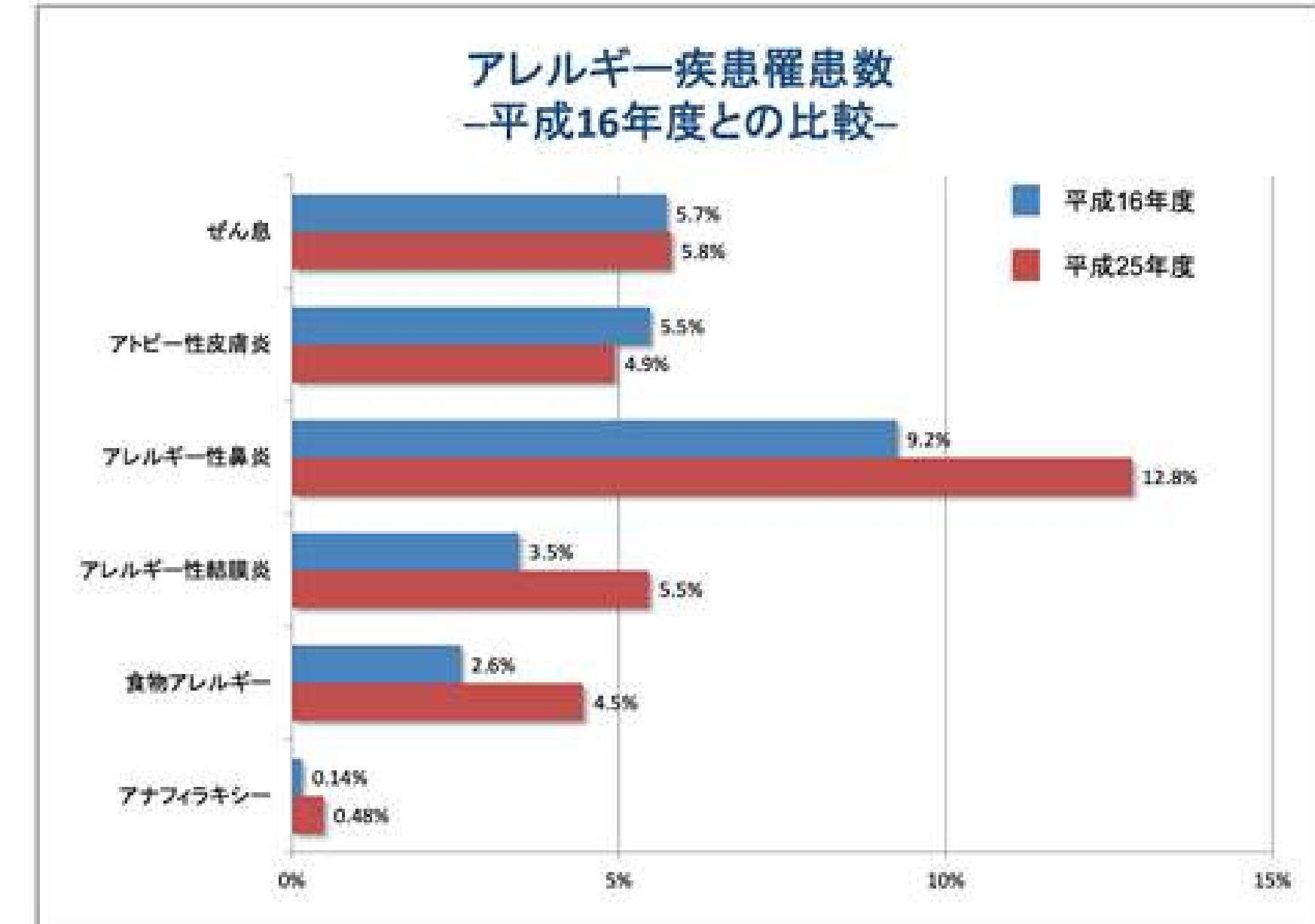


○加納 美知子^{1, 3}, 杉田 里奈², 秦 百花², 赤嶺 有希子³, 田中 祥子^{1, 3},
赤嶺 美奈^{1, 3}, 松尾 律子^{1, 3}, 高木 正信^{1, 3}, 堀 泰羽^{1, 3}, 姜 恵元^{1, 3},
吉原 澄吉⁴, 谷田 弘⁴, 澤井 一^{1, 3}

和同会薬局 湯島店¹, 東京大学², 和同会薬局 駿河台店³, 一般財団法人 和同会⁴

目的

薬剤師に求められている社会的役割はとても広く、薬剤師法の第1条で公衆衛生の向上及び増進に寄与し、国民の健康な生活を確保するものとする定められている。当薬局は地域に貢献する薬局として調剤後も継続的に患者への情報提供を行っている。今から約70年前には日本ではアレルギーはほとんどなかった。現在では3人に1人は何らかのアレルギーを持っているといわれている。小麦粉の中のオメガ5の食物依存性運動誘発性アナフィラキシー（food-dependent exercise-induced anaphylaxis, **FDEIA**）の患者の来局をきっかけに、このアレルギーについて広く地域住民に啓蒙し、安全に安心して生活できることを目的とした。

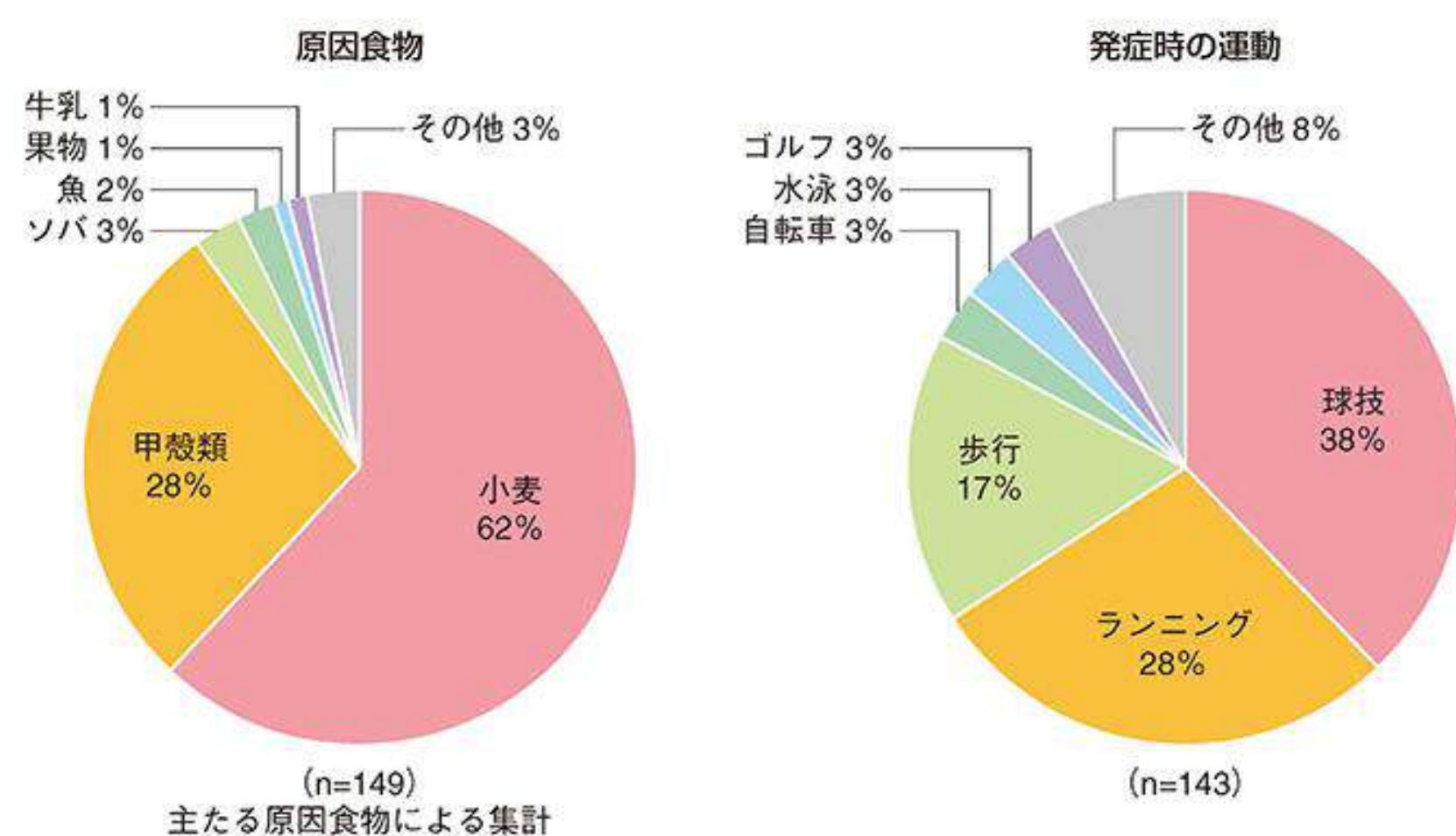


・引用先
<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10905100-Kenkoukyoku-Ganshoppetaisaku/0000112469.pdf>
厚生労働省調べ

【FDEIAの有病率】

	小学生	中学生	高校生	合計
総生徒数	173,029	76,247	104,701	353,977
FEIAn 有病生徒数	8	13	9	30
男：女	7：1	11：2	6：3	24：6
頻度（％）	0.0046 1/22,000	0.017 1/6,000	0.0086 1/12,000	0.0085 1/12,000

【FDEIAの原因】



・引用先
https://www.jspaci.jp/guide2021/jafa2021_13.html
食物アレルギー診療ガイドライン2021版ダイジェストより

症例

大学病院皮膚科に受診した50歳代女性。オロパタジン錠5mgが1日2回1回1錠朝夕食後の処方を持参された。食後に歩行などの軽運動をするだけで蕁麻疹の症状があらわれ、症状発現時には3日間継続して服用するように指示されたこと、併用薬として現在もアナフィラキシー補助薬のアドレナリン自己注射製剤を所持していることを聴取した。2年前にアナフィラキシー発作を起こし救急搬送され、血液検査で小麦粉のオメガ5による食物依存性運動誘発性アレルギーであることが判明した。子供の頃から、蕁麻疹が出やすかったが抗ヒスタミン剤を飲めば治まっていたため、いわゆるアレルギー体質であると思っていたとのことだった。



結果

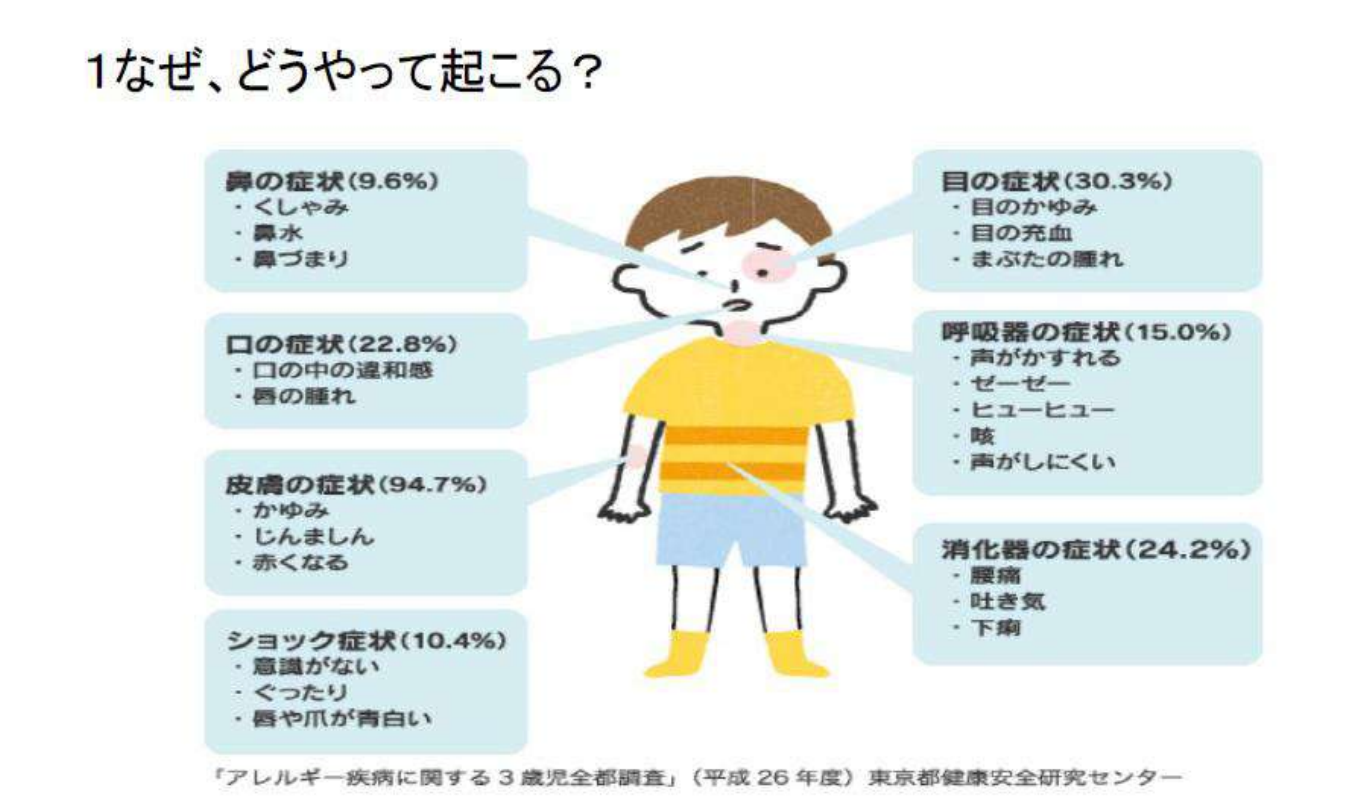
アレルギー全般や食物依存性運動誘発性アナフィラキシーについての勉強会を開き知識を深めた。調剤室内にパンフレットやポスター等を設置した。薬局のホームページに掲載した。近隣の商店等に設置した。このような地道な活動を通し、公衆衛生の向上及び増進に寄与でき、気軽に相談できる環境を作り安全に安心して生活できるようなアドバイスにつながった。また、「食物依存性運動誘発性アレルギー」に対して正確な情報を提供した。

【患者さん向けパンフレット①】

食物依存性運動誘発アナフィラキシー 知っていますか？

運動することでアレルギー反応が誘発されることがあるんです！

1なぜ、どうやって起こる？



食品に含まれるアレルゲンに免疫系が反応して、上図のようなアレルギー症状を引き起こします。アレルゲンとなる食品を食べただけでは生じずに運動した時だけアレルギー症状がおこることもあり、中でもアナフィラキシー状態になるものを食物依存性運動誘発アナフィラキシー（FDEIA）といいます。これは、運動によって食品の吸収が増加し、また免疫系が働きやすくなるからです。

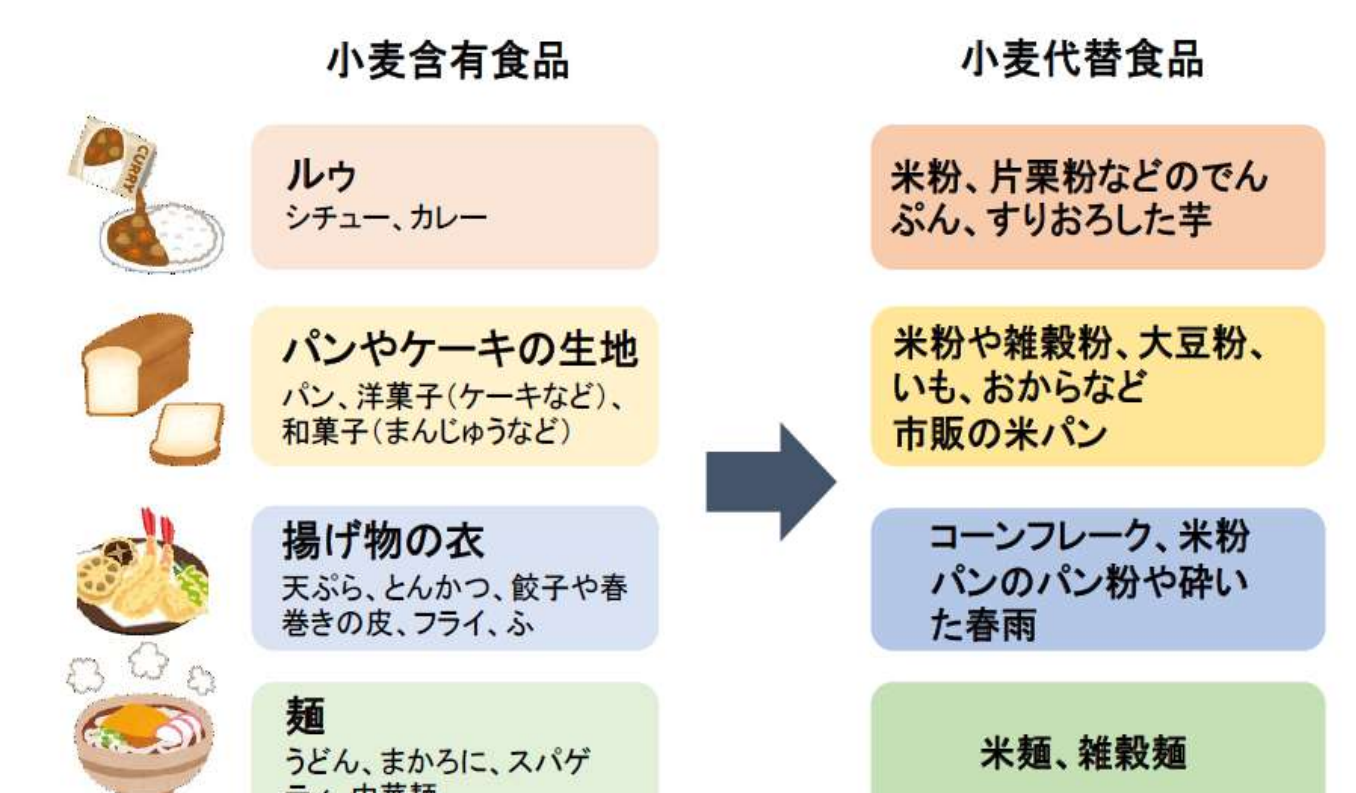
FDEIAは小麦や甲殻類（エビカニ）で生じやすいですが、他の食品でも生じることがあります。食べただけではアレルギー反応が起こらず、アレルギーと気づきにくいのが特徴です。アナフィラキシー等の重篤な症状が出る前に気付くことが大切です。

2対処法は？

アレルギー症状が出た際には、抗アレルギー薬や抗ヒスタミン薬を内服します。重篤なアナフィラキシー症状が出た場合は直ちにエピペンを注射します。いざというときにすぐに注射できるように、アレルギーを持っている方は、普段からエピペンを持ち歩くようにしましょう。自分では注射できない場合もあるので、周囲の人もエピペン注射の使い方を覚えておきましょう。

エピペンの使い方は、別紙参照！

また、アレルゲン食品を摂らない、アレルゲン食品を食べた場合は食後2時間は運動しない等、そもそもアレルギー症状が起きないように心がけることも重要です。どの食品にアレルゲンが含まれているのか栄養成分表示で確認し、含まれている場合は代替食品をうまく活用しましょう。例えば、FDEIAのアレルゲンとして最も多い小麦は、以下のような食品に含まれています。



市販のものでも、例えば小麦を含まないよう工夫されたカレーなどあるので、栄養成分表示を確認して小麦を含まない代替食品を探してみましょう。

アスピリンを飲むとアレルギー反応が強まると言われているので、アスピリンを飲んだ際は特にアレルゲン食品を摂らないようにしましょう。

代替食品などをご紹介します

考察

患者自身が「食物依存性運動誘発性アレルギー」についての知識がなく、アナフィラキシーショックを発症するまで、自分の疾患について知らなかったという症例から、この疾患についての情報を薬局から地域住民に発信することが大切であると考えた。処方せんが無くても、いつでも気軽に相談でき、信頼してもらえる地域住民に密着した調剤薬局、薬剤師にならなければならないと考えた。

<FDEIAのメカニズムについて>

運動がアレルギーを誘発するメカニズムとしては、以下の2つが知られている。

①運動負荷が好塩基球や肥満細胞の活性化閾値を低下させる。

②運動負荷が腸管上皮の透過性を更新させ、腸管からの抗原吸収を増強させる。

<エピペンについて①>

海外にエピペンは持ち込めますか？

エピペンに関するQ&A

Q.エピペンを飛行機の機内に持ち込みできますか？

A.エピペンの機内持ち込みには、診断書が必要な場合があります。

航空会社	事前の持込申請が必要か	診断書	その他の書類
日系(ANA,JAL等)	不要	不要	要書類(保安検査用)
海外航空会社	必要	必要	要書類(保安検査用)

* 保安検査用の書類とは添付書類もしくは英文診断書などです。基本的にすべての航空会社で持ち込むことができます。外国航空会社では、航空会社指定の診断書が必要になります。基本的に英文診断書が必要になるので、主治医に、記入依頼が必要になります。念のため、現地分の英文診断書も別に取得しておくといいでしょう。



<エピペンについて②> 保管方法について



液体の変色や沈殿物にも気をつけましょう！

https://www.epipen.jp/download/EPI_guidebook_j.pdf
エピペン ガイドブック

<エピペンについて③> 患者さん向け資料

薬局でのエピペン講習の様子

薬局内陳列中！